

第 2 回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

<学力向上>

- これからの社会は何が起こるか想像が難しい。PISA 型の学力をしっかりとサポートしていき、個々人の個性や能力を伸ばして、新しいところを目指すことが大切である。
- 課題解決型の学習や意見発表と知識を身に付けることとの関係を整理する必要がある。子どもの時間は限られているし、双方のサイクルをうまくつくることが大切である。
- 学校の世界で教育委員会がしっかりやろうという一方で、生徒が家庭でしっかりやるという要素も大事である。
- 退職された先生が既卒生や現役生を指導することは大きな力になると思う。頑張っただけの先生がさらに面倒をみることで一層効果が出る。
- 下位も少ないけれど、飛び出した人も少ない。できるだけ下位の人々のレベルアップを図り、付いていけない人が出ないようにすることも重要である。

<外国語教育>

- 国に先行して英語を教科化することで、話す行為を日常化して、英語への苦手意識を減らしたい。体験を通じてスピーキング力の向上を図る必要がある。
- 英語だけでなく、中国語など他の外国語を学ぶことも大事である。中国語で福井県だけでなく企業の紹介も一緒につくるようなことをやると、話せることや書けることにつながるのではないかと。
- 小学生は小学生なりに、高校生は高校生なりに英語を話せることが大切であり、実際に英語を使う場面を増やしていく必要がある。子どもたちが自分でつくるのは難しいので、大人なり学校ができれば、子どもたちの世界が広がる。
- 都会では外国人と接する機会が多いが、福井では限られる。日常の中でちょっとしたことでも話せて成功する体験があると次につながるのではないかと。
- 英語など外国語教育は全ての学校が関係するので、方法論を学校に任せて、うまく進めたところから他の学校が学ぶといったやり方も考えられる。
- 県内で英語が必要な場面は限られるが、企業が海外進出していく際に使ったり、外国人に本県の観光資源を紹介する際に使ったりするなどの還元が考えられる。

- 外国語は単語など「お勉強」の部分はあるが、そこから飛躍して、外国語を通じて何かを得ることや外に広げることが大事ではないか。

<ふるさと教育>

- 福井の教育を地域資源の一つとして位置付けてはどうか。首都圏などに発信して、福井で教育を受けたい人を増やすというやり方もある。一つのブランドにできないか。
- 学力とは別に社会性を持つ必要がある。高校で卒業する生徒もいるし、社会と関わる経験として、ボランティアは大きな意味があると思う。
- 福井の教育の良さを福井にいる人に周知して、そこからさらに都会にいる福井出身者に伝えられれば良いと思う。大学卒業後すぐにはなくとも、子育てをする中で福井に戻りたい人が増えることも考えられる。
- 地元に戻る理由には、過去に楽しい経験を積んだことがあると思う。小・中・高校の間に経験できるといいし、祭りなどを絶やさないように応援してもらいたい。

<教員指導力向上>

- いろいろな意見はあるが、教員の力で教育のレベルが決まるという考え方もある。福井県はすでに学力は高い水準にあり、教員の自主的な活動を増やすことで、さらに次のレベルに到達できるのではないか。
- 採用試験では優等生的な先生が多かった。基礎ができている優秀な先生に、学校現場であえてここまでの幅ならというチャンスを与えてあげると化けるのかもしれない。
- 福井の先生はまじめだし、教育委員会の通達にも末端までしっかりと対応する。あまりストレスをかけすぎないようにして、しっかり健康管理もすることが大切である。

<その他>

- 学力とは別に社会性を持つ必要がある。高校で卒業する生徒もいるし、社会と関わる経験として、ボランティアは大きな意味があると思う。
- 福井しあわせ元気国体に向けた競技力向上に加え、一般の生涯スポーツやイベントについてもしっかりと書いてほしい。生活を維持するためのスポーツも重要である。
- 部活動の規模などにも影響するし、学校の再編もしっかり考えることが重要である。
- 教育における ICT の活用はこれからの分野なので、教材メーカーなどと連携して新しい取り組みを始める余地がおおいにあるのではないか。
- 文化をあまり四角四面にやらないで、楽しい文化活動を進めてもらいたい。